



沖縄国際大学 FD通信

沖縄国際大学 教務部長 2011年8月4日発行

『教育支援者(TA・SA)』特集 日本文化学科における TA 活用事例

日本文化学科では「言葉のプロになる」ことを卒業までの到達目標としています。その基礎となるライティング技能(語彙力・構成力)を1年次までに確実に習得させるため、「基礎演習Ⅰ」ではライティングアシスタントとしてTAを配置しています。

講義→文章作成→添削→到達度の確認・振り返りというサイクルを「要約文」「意見文」「レポート」について、それぞれ1回ずつ(合計3回)繰り返すことにより、①新入生全員がライティング技能の基礎力を高める、②各授業での発表・レポート作成等における苦手意識を解消し、日々の学業に対して高い達成感を与えることを目指しています。

今回は、実際にTAを活用している教員、TAとして活動している大学院生の「生の声」を古堅裕之さん(教学課・学生FDスタッフ/地域文化研究科・M1)が取材しました。



TAを活用することで、今まで出来なかったことが出来るようになりました。

【仁野平智明・准教授の声】

Q1 TAを授業で活用しようと思った経緯を教えてください。

学科のシラバス作成の中で一年間ぐらいかけて検討されたものです。リーディング・ライティングスキルを段階的、系統的に向上させる為の、具体的な作業の補佐としてTAを活用する事になりました。

Q2 TAを活用して授業の変化がありましたか。

リーディング・ライティングスキルを段階的、系統的に向上させるということは、実務の面で負担が大きく、今まで、やりたかったが出来なかった事でした。TAを活用することでそれが出来るようになりました。また、TAが学部卒業生ということで、1年生にとってこれから学生生活をどのように過ごせば良いのか先輩に相談することが出来る、という効果もありました。しかし、TAの授業外での添削作業が過重負担になってしまったと反省点もあります。

Q3 日文でライティングセンターを立ち上げた経緯を教えてください。

学科全体のカリキュラム検討時に出た話題です。約一年かけて検討してきました。実際に行ってみないと分からない部分もあるので、まずはやってみようということで、今年度から始めました。現段階では基礎演習の延長で行っていますが、いずれは学生が足を運びやすい環境の中で、ライティングスキルの向上を目指したものにしていきたいです。

Q4 「今の学生像」と「先生が学生の時の学生像」で感じた違いはありますか。

今は良い意味でも悪い意味でも社会が親切で、分かりやすい目標をクリアしてきた学生が多いと思います。高校と大学で求められる力の差が開いてきているのではないのでしょうか。先日の授業で、学生にレポートを高校の授業でやったことがあるか質問したら、手上げたのは4人でした。25分の4です。大学で求められる文献を探す、読み取る、考察するという総括的な力のうち、考察する力が欠けているのではないのでしょうか。

(取材：古堅裕之)



！今年度もTA・SA活用事例を特集していく予定です！

『計画性と人間性が組み合わさった授業を作りたい』（TA：国仲さん）

【TA：国仲洋江、勝連亜衣、湧川菜央（地域文化研究科・南島文科専攻・M2）の声】

Q1 院生である皆さんが、TAをやろうと思ったきっかけを教えてください。

国仲 募集要項を掲示板で見たのがきっかけです。学業とアルバイトに加えてTAの業務が出来るか不安でしたが、先生との相談で解消されました。

勝連 私の1つ上の先輩がTAの業務をやっていて、その話を聞いて楽しそうだと感じたのがやりたいと思ったきっかけです。

湧川 私は先生から話を頂いて、やろうと思いました。TAの業務を拝見した時に、学生と関わりがもてるという所に惹かれました。

Q2 具体的な業務内容について教えてください。

三人 現在、基礎演習ではレポートの書き方を教授しています。私達の業務は、その授業のサポートと、学生の要約文の添削、ライティングセンターでの個別指導を行っています。

Q3 TA業務で心がけていることがあれば教えてください。

国仲 事柄を教える際、分かりやすい例を提示しますが、日文の学生が対象ですから、文学作品を例示するように考慮しています。

勝連 添削する際には、悪い所の指摘だけでなく、良い所を褒めるように意識しています。

湧川 基礎演習の受講生は1年生のため、今やっている事は卒論を書くためであり、社会でも必要な能力であることを説明して授業に取り組みせています。学習の見通しを立てること、学生に意識してもらうことが大切です。

Q4 皆さんは国語科の教員を目指しているそうですが、TAの業務で経験したことを将来どのように活かしたいと思っていますか。

国仲 TAの業務を通して、教授するには綿密な計画が必要だと実感しています。また、学生同士が将来の夢を語り合っている姿をみて、人の視野を広げるのは人との関わり合いだと感じました。私は、計画性と人間性が組み合わさった授業を作りたいです。

勝連 高校を卒業して間もない学生を見ていて、基礎学力に差があることなどから、教師が学生に与える影響の大きさを感じました。教授する側の責任を持って教員になりたいと思います。

湧川 今、添削指導で使っている教材を、私が将来教壇に立った時に使いたいと思います。また、ライティングセンターのような環境を学校現場で設けてみたいです。学習の振り返りが出来る環境があると生徒は変わると感じています。

（取材：古堅裕之）

